

長計策定会議第二分科会

2000年2月17日

三井物産戦略研究所

所長 寺島 実 郎

### 原子力政策への見解メモ

エネルギー価格の急騰、サウジアラビア・アラビア石油問題などを踏まえ、多様な視点からの議論も必要と考え、単なるエネルギー需給戦略を超えた次元での「原子力戦略」について発言しておきたい。

#### 1. 国家安全保障戦略の中核としての原子力

- ・日本が「非核平和主義」を貫き、軽武装経済国家として21世紀を生きるためにも、逆説的ではあるが、原子力の平和利用技術における蓄積を重視すべきである。

①原子力技術者の層の厚みなくして「核兵器廃絶」への説得力・交渉力なし

②近隣の原発の安全性確保への協力基盤の維持

- ・21世紀の日本の国際関係を展望するならば、中国の強大化、韓半島の統一などの可能性もあり、日本にとっての核の脅威は新たな局面を迎えると想定する必要あり。
- ・米国の核の傘を前提とした原子力戦略は通用しない可能性大。焦燥感から、日本自身の不用意な「核武装」論が台頭しないためにも、「核の平和利用」についての日本の理念とスタンスを確立しておく必要あり。

#### 2. エネルギー戦略での世界への貢献の重要性

- ・日本の国益（エネルギーの安定確保）と世界の公益を繋げるための視点の大切さ。
- ・日本が貢献できるエネルギー分野でのシナリオの明確化。
- ・原子力安全に関わる「和製デファクト・スタンダード」の主導性の確立。  
但し、日本には原子力に関わる基準を専門的に検討する恒常的組織なし。

### 3. 「原子力依存構造」への覚悟

- ・原子力の議論には文明観が必要。原子力が人間が生んだ技術のなかで「等身大の技術」でないことは確かである。(再生可能エネルギーなどとの対比)
- ・但し、我々の生活が「文明化」のなかで、生身の人間では制御不可能な技術に取り囲まれていることも事実。(ジェット旅客機、超高層ビルなど)
- ・従って、現代人にはキレイゴトを超えて、それらのシステムに身を任せて便益を得ていることによる「覚悟」が問われる。
- ・その「覚悟」を前提とする最善の制御が求められる。  
(例) 原子力安全技術を有する第三者外部監査の導入

### 4. 結論：多様で多角的エネルギー戦略の重要性（絶妙のバランス論の探究）

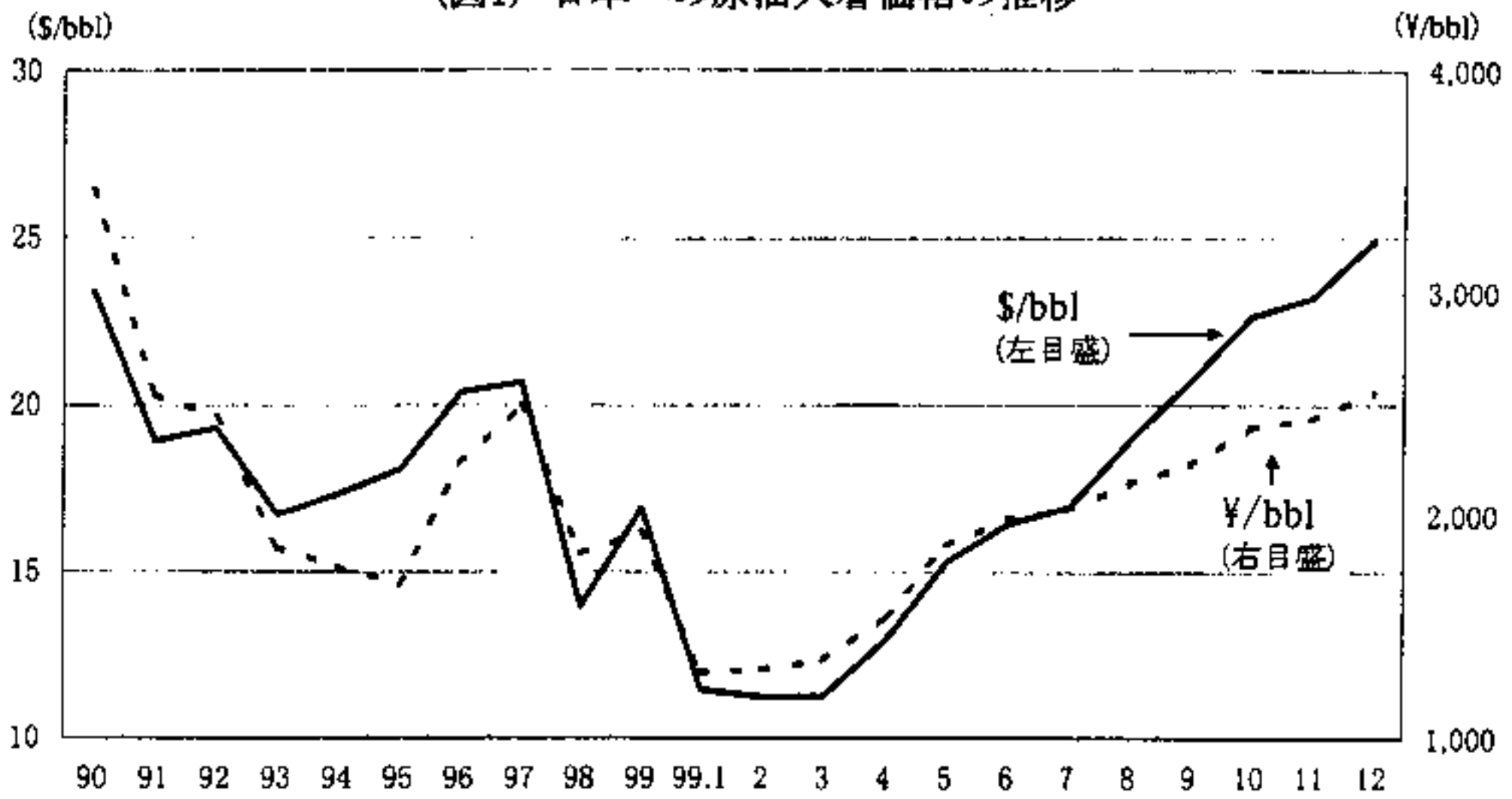
- ・持ち時間ゲームの中でのベスト・プラクティスの必要。国際エネルギーの世界はエゴと悪意に満ちた綱引き。白紙に絵を描くような気軽なものではない。
- ・政策意思が大切で、新エネも省エネも懸命に取り組むべし。LNGも大切。戦略的バランスとして、一次エネルギー構成比での10年後の目標についての私見。

〔新エネ、省エネで現在のエネルギー消費の5%程度を賄うことを前提とした上で〕

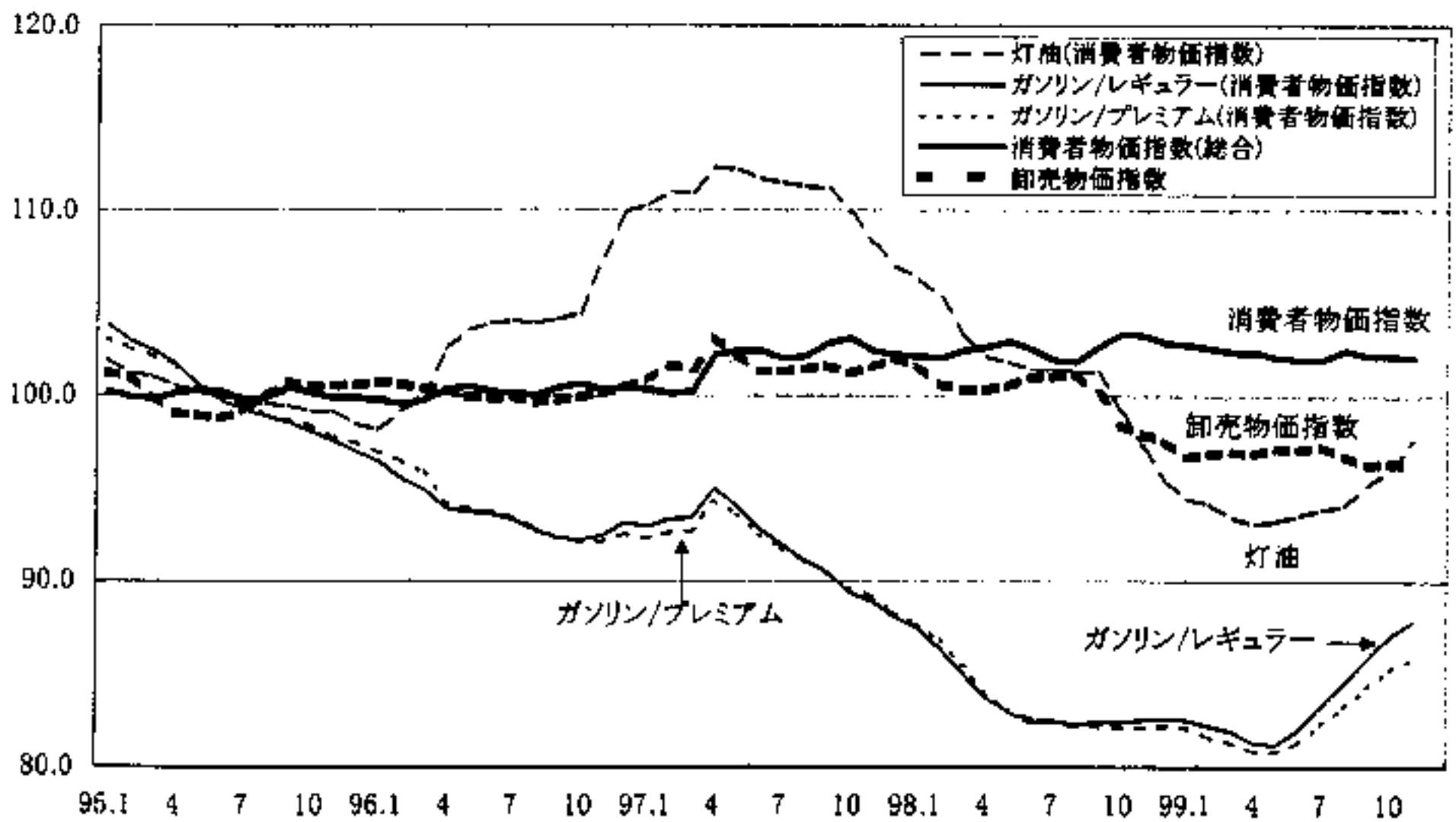
- ①石油を45%（現在52%）
- ②石炭を14%（現在16%）
- ③LNGを17%（現在13%）
- ④原子力を15%（現在15%）
- ⑤水力を4%（現在4%）

以上

(図1) 日本への原油入着価格の推移



(図2) 日本の物価指数の推移



原油輸入量の中東依存率の推移 (%)

| 1973年 | 1987年 | 1990年 | 1993年 | 1994年 | 1995年 | 1996年 | 1997年 | 1998年 | 1999年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 78.1  | 67.4  | 71.5  | 76.3  | 77.1  | 78.6  | 80.0  | 82.4  | 85.6  | 85.2  |

出所:通産省「エネルギー生産・需給統計月報」